

2025年度 中東☆イスラーム教育セミナー（第21回）

日時：2025年9月18日（木）～21日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階 大会議室（303）

「紛争後の「新たなシリア」の創出－HTS 新政権の正当性と国家再建－」

藤永凜（立命館大学大学院）

今回、教育セミナーでは、自身の研究の発表をする機会に加えて、その他の発表者や専門家の発表を聞く機会にも恵まれたため、とても有意義な時間を過ごすことができた。

まず、発表者自身の研究発表に関して、分野を問わず様々な専門家や学生の方々から、研究内容に対する質問・コメントを頂けたことで、何が足りないのか、構成はこれでよいのかといった自らの研究の課題点や修正点が明らかになった。例えば、研究の時代設定に関して、私はどのくらいを研究対象期間にするのかを明確に定めていなかったため、他の受講生の方からそのことに関するコメントや、研究時期を設定する重要性をご指摘頂いた。また、私が専門用語の使い方を間違っていたことや、誤解を招くような表現をいくつかしてしまったため、それに対するフィードバックをいただけたことは大変ありがたかった。実は、このセミナーに参加する前まで、研究の内容や分析方法、進め方にかなり悩んでおり、研究に行き詰っていた時期があった。しかし、今回の発表を通じて得られた、いろんな方々からの客観的かつ、的を射たコメントやご意見により、研究の方向性がより明確になったため、不安や悩みはかなり解消されたと考える。

そして、このような研究内容に関するだけでなく、発表を通じて、自己成長にもつながることができたと考える。これまで、あまり大勢の聴衆の前で自分の研究を発表する機会がなく、最初はかなり緊張をしたが、この大勢の前で話すという大変貴重な体験をさせていただけたことにより、発表することへの恐れというものが消え、人前で話すことに慎重さを持ちつつも、自信がついたように感じる。

このように発表者として参加した一方で、聴講者として、同じ中東・イスラーム分野といえども、それぞれ異なった視点や時代、社会を研究する専門家および受講生の発表を聞くことができ、大きな自身の学びへと繋がった。例えば、特に私が印象に残っている発表は、坂梨さんによる「イランの選挙と体制の正統性」であった。一般的に権威主義体制下では、民衆の意見が反映されることのない、体制側が操作する不正なものであるため、選挙は意味のないものとして見なされがちであるが、坂梨さんは、逆に体制側が選挙管理を行いながらも、国民の反応を常に伺うことで、選挙から体制の正統性の確保を行ってきたと説明していた点が特に興味深かった。こうした体制が正統性を得るためにどのような行動をとりうるのかという点は、私の興味関心や研究テーマにも通ずるところがあったため、とても勉強になった。

ここで得られた学びと経験は、今後の研究生活に大いに活かしていく所存である。

そして、最後にこのように充実した時間を過ごすことができたのは、受講生という仲間、講師の方々、そして運営者の方々のおかげである。感謝御礼申し上げる。